

日本学術会議

ネット基「幽玄の間」会話で、S氏が「就任早々に虎の尾を踏んだ管首相」と言って、それに対応したJ氏が「彼は教養がないから～」と。

「日本学術会議」への推薦人105人の中から「反政府」と思われる言動を過去にしていた6人を任命しないということが騒動の発端だ。

某県知事は「菅義偉という人物の教養のレベルが図らずも露見したということではないか」とまで言及。

今年都知事に立候補した某氏は、天皇には総理大臣の任命権はあるが拒否権はないのと同じとコメント。

せっかく「庶民宰相」として、高支持率で国民から歓迎された管さんだったが、意外にその本質は希薄なのか。

それとも、マスコミの「あおり本質」を見抜いての言動を操る老狐なのか。

今回の騒動で、「日本学術会議」とはいったい何なのか、という今まで国民の意に介さなかった課題として挙げられた。

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年(1949年)1月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立されました。職務は、以下の2つです。

- ・科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
- ・科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野の約87万人の科学者を内外に代表する機関であり、210人の会員と約2000人の連携会員によって職務が担われています。

日本学術会議の役割は、主に以下の4つです。

- ・政府に対する政策提言
- ・国際的な活動
- ・科学者間ネットワークの構築
- ・科学の役割についての世論啓発

(以上、会のHPより抜粋)

私個人としては、「国民のため」という大義に「日本学術会議」が資する組織なのかが重要と思う。

2020年10月